

『火事からまちを守る』3年生

1. 本時のおおまかな流れ

①前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。

めあて「火事からまちを守るために自分たちができることを考えよう」

②自分にできることを書いた付箋を、グループで1枚の紙（Yチャート）に貼る。

③自分たちにできることは何か、大人の協力が必要なことは何かを話し合う。

④ ③を受けてさらに自分にできることはないかを話し合うとともに、本時を振り返る。

2. 研究会でのグループ協議

※付箋を貼りながらグループ協議する形で研究会を行いました。付箋に書かれたご意見を一部紹介します。

ピンクの付箋（成果など）

- ・子どもが自然体で、子どもの言葉で話し合っていた。
- ・子どもの意見をあたたかく受け止めている雰囲気がよかった。
- ・たくさんの情報が教室に掲示されており、学習の積み重ねを感じた。
→資料をもとに発言できると良い。
- ・思考をつなげていくためのツールにチャレンジしていた。
(本時前半=Yチャート 本時後半=ベン図)
- ・前時の時点で、子どもたちはたくさん付箋を書けていた。
- ・付箋の色分けにより、何に対して考えているか分かりやすかった
(ピンク…学校、黄色…家庭、水色…地域)
- ・前時に子どもたちが書いた付箋に先生がコメントを書いていた。
「だから…?」「自分でできる？」など それを見て子どもが考えていた。
- ・本時後半「自分たちにできると考えてみんなが書いたものの中に『子どもにはできない』ものもある。これはどうしたらいい?」と深める発問をしていた。
ここから後の話し合いに、時間をかけられればさらによかった。

黄色の付箋（質問・疑問など）

・ 付箋・Yチャートについて

Yチャートの紙を大きくする？（A3の倍くらい？） 付箋の数を精選する？

書いた付箋を全て貼らず個人のベスト1を貼る？

前時に班の意見を決めておく？ 班の人数（6人）を、3～4人にする？

Yチャートがよいのか、自分の考えを発表した後分類するのがよいのか？

・ 判断を求める問いについて

判断を求める問いの後に時間をかける？

掘り下げるべき発言があった？

（知らせるだけでは？ 自分は家の人と協力して「何」をする？ など）

できる・できないを分類した後「さらに自分にできることはないか」が

判断を求める問いでは？

3. 授業協力者の助言

①色分け・Yチャートについて

・ ツールは使うべきかどうかよく考えて精選する。

・ 学習したことをもとにして根拠や理由を言うことが大切。

・ グループは3～4人が休む間がなくてよいのではないかな。

②判断する場面について

・ 地域の一員という意識は、これからの学習を考えて大切。

・ 家庭の火災発生が学校より多い などの資料提示をするのも、子どもが
立ち止まって考えるためのよいのではないかな。

③単元構想について

・ 「考えたい」「話し合いたい」と思えるように、「意欲を高める手だて」が重要。

→そのために先生は、体験活動（学校施設の調査や消防団の方の話を
聞く場面 等）などをたくさん取り入れた。

・ 朝の会の活用なども大切なこと。

・ 本時の評価…主体か、思考か 今後考えていく必要がある。